2013-2014 年度今治ロータリークラブ週報 No.30

第 ３０ 回 例 会 報 告（2月１３日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５３名　・出席数　３４名　・欠席数　１９名
・当日出席率　６７．３４％　・前々回修正出席率　９１．８４％
＜欠席会員＞青野(賢)、原田、檜垣(巧)、川上、木村、小堀、久米、桑森、光藤、宮本、岡田、越智、尾越、大澤、竹田
〔免除会員〕青野、飯、松本、白石
<1/30 欠席補填(1/20 今治北)冠、吉良、光藤、西本　(1/21 今治南)青野(賢)、檜垣(巧)、小堀、桑森、松木、村上(修)
尾越、田中、矢野

◇会長報告・米山記念奨学会より、松木徹夫会員へ米山功労者感謝状が届きました。
◇幹事報告・書き損じ葉書のご協力を引き続きお願い致します。
◇親睦活動委員会・お誕生日スピーチ・檜垣賢二会員：何歳になってもバースデーソングを歌ってもらうと照れる。63 歳です。明日からも頑張って次の年を生きていきます。

国際奉仕委員会アワー

◆冠康秀委員長挨拶：日吉中ALT（外国語指導助手）のロビンソン・デーモンさんと同中教諭の羽藤りえさんをお招きしました。デーモンさんは1989年、米国セントルイス生まれ。ワシントン大セントルイス校で日本文学を専攻し、19歳の時、日本に留学。世界は広いようで狭いと感じ、以来、留学生のサポートに力を注いでいます。大学卒業後は上海に留学、さらにワシントンで上下院議員と他国の政府関係者を結びつけることを目的としたNGOのインターン経験があります。今治へは自治体国際化協会が運営するJETプログラムにより2012年に赴任。昨年4月からは地域アドバイザーも兼務、県内での研修運営や市内のALTの精神的サポートなどに当っています。

◆ロビンソン・デーモン氏「○○○としてのアイデンティティーを忘れる一時」：最初は○○○を「外国人」とするつもりだったが、日本人の皆さんもアイデンティティーを忘れることがあると思い、こういう形にさせてもらった。アイデンティティーは私の考えでは帽子のようなもの。羽藤先生はふだん教師の帽子をかぶっているが、もうひとつのアイデンティティーは二人の子の母。一人の中でふたつのアイデンティティーがオーバーラップすることがある。人それぞれに無数のアイデンティティーがあるし、他人と共通のアイデンティティーを発見することがある。私と羽藤先生の共通項は「教師」であり、「初めてRCに来た人」などだ。▼日本での悩みの原因のほとんどは「外国人として見られている」ということ。日本人は幼い頃から「外国人は」などと教わるが、米国に「外国人」の概念はあまりない。私は普通と思っているのに、「外国人」のアイデンティティーをかぶらされる。これは衝撃だ。外国人であることを思い出すことは精神的負担になる。例えば電話で5分ほど話した後、相手が「名前を聞いてもいいですか」と言うので名乗ると「本当の名を言って」と返されることがある。外国人は日本語ができないという概念があるからだ。▼外国人という身分が原因の悩みが大きく、狂いそうになったこともある。一緒に留学してきた友達と１日だが集まってみると大変よかった。安らぎが得られた。私は外国人のアイデンティティーを自らかぶるときがある。米国人といるとその概念が捨てられると感じた。日本に留学中、よさこい祭りに夢中になった。プランニングでもめにもめたが、いいものができた。みんな一緒のアイデンティティーをかぶったとき、うれしい経験になった。▼RCは留学生を送ったり受け入れたり他の事業で関係を結んだりしている。いいやり方は個人レベルで知り合うことだ。国の代表にならず、それを相手に期待されず、人としてやっていく。共通のアイデンティティーを知り合って、異なるアイデンティティーを探っていく。国同士でもトップ同士が個人的に結びつくことで、関係が円満になるのではないだろうか。個人の生活でも応用していただけたらと思う。

＜ゲスト＞今治日吉中学校　ALT　ロビンソン・デーモン様、教諭　羽藤りえ様

次 回 例 会（2月２０日）

【　ロータリー創立記念例会　】

＜配偶者誕生祝＞　平尾　浩一郎氏（2/25）

〔　健寿司　〕